

| | |
|------|--|
| 会議名称 | 県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議 |
| 開催日時 | 令和7年12月17日（水）14時00分から17時20分 |
| 開催場所 | 波止場会館 1階多目的ホール |
| 出席者 | 渡部副議長、大川委員、小西委員、隅田委員、野崎委員、高原委員、羽生委員、上野委員 |
| 問合せ先 | 障害サービス課 支援改革グループ |
| 会議概要 | 以下のとおり |

【個別事例の検証】

- 機能低下を防ぐ、あるいは健康を高めていくために支援を追求すべきである。
- 家族への対応として、忙しいから支援できないというのは、福祉的な業務の不履行と言われても仕方がない。
- 身体拘束が長時間続いていたことは、ある意味不適切な支援が日常化してしまっている状況があった。
- 入院するにあたって、施設職員として、どうして入院なのかというプロセスをしっかりと議論して記録に残すことが大事で、そういう会議録が残っていなかったことは、乱暴だと言わざるを得ない。
- いきんりの入院で、ベッドも何もない部屋に入れた時に、職員はどう思ったのか。こういう部屋に入れることがおかしいと思わなかったのか。なんで障害者は、こんなに差別されなければいけないのか。
- 入院に対する意思決定、権限や判断に加え、そのプロセスの記録も無い状況は、施設として体をなしていないのではないかと。
- グループホームに入りたいという思いがもういいやという思いに変わった部分に、ご本人に対する支援が表れているのではないかと。利用者と寄り添えるような支援を行ってほしい。
- 福祉の専門的な立場において、どういう態度が正しかったのか、どういう心構えを持って関わるべきだったのかという検証を園でより深めていただきたい。
- 個別支援計画では、毎年どのように評価していたのか。個別支援計画には施設の考え方が反映されるため、職員が利用者をどのように見ていたのかも含め、どういう表現であったのかしっかりと確認してもらいたい。
- 記録がないということは大問題。プロセスがあることで、証明されることもあると思う。
- 一人でできることが正義という短絡的な考えがあるが、一人でできることが増えることで、暮らしや人間関係が増えて豊かになっていかないと意味がなくて、そこにつなげていく取組をしていかないといけない。